



小さき群

救主降世2013年10月号 第88号

2013年度北海道教区宣教目標

『確かに未来はある あなたの希望が断たれることはない』

箴言23章18節

教会HP <http://www.obihiro-seikokai.com>

教会と私の出会いは27年前

岡田真理亜

母がクリスチャンだった為、私も生まれたときから自然と教会に通うようになりました。イースターや夏のキャンプ、クリスマス会…と学校とは違う仲間に出会えることがとても嬉しく、新鮮だったことを今でも覚えています。毎週の日曜学校では、お説教の後に聖書の御言葉が書かれた「シール」を頂けるのですが、シール台紙に貼り大事に保管していました。この原稿を書くにあたって、久し振りに見返してみたのですが、忘れていた御言葉も多く、反省…です。

中学生、高校生の頃は、何となく教会から足が遠のいてしまった時期もありました。自分の都合の良いときだけ、神様に祈ってみたり、助けを求めてみたり、と今思うと恥ずかしい気持ちになります。就学を終え、初めての社会人経験も帯広聖公会幼稚園でした。幼稚園教諭としての自覚も少なく、学生気分が抜けない私だったにも関わらず、周りの方々には本当に温かく見守って頂き、思い返すとここでも恥ずかしい気持ちになってしまいます。

一昨年結婚をし、家庭をもつことが出来ました。偶然なのか？必然だったのか、主人の家庭もクリスチャンだったのです。主人の家庭がクリスチャンであることは、結婚が決まってから知りましたが、結婚相手を選ぶ際、“クリスチャンであること”が自然と条件に入っていたのかもしれませんが。

義母は熱心なカトリック教徒で、若い頃から教会に通っていたそうです。主人の家族と私の家族を結んでくれたのは、神様のお力であり、お導き下さったのだと確信せずにはられませんでした。

各々の国ごとの管区が独立で自治権を持ち、イエス・キリストの名において祈りを捧げる聖公会に対し、全世界のローマ・カトリック教徒が教皇の支配下にあって中央集権的な体制をとり、一部には聖母マリアの力にすぎることによって人は救われるという聖母崇拜の習慣があるカトリック。違いはありますが、似ている箇所も多く、大きく戸惑うことなくカトリック教会の礼拝にも何度か参加させていただきました。

私の人生を振り返ってみると、いつでも神様が傍らで見守って下さり、お導き下さっているのだな～と強く感じます。2ヶ月前に主人の転勤の辞令で帯広に越し、こうしてまた聖公会に通える環境を与えてくださったのも、神様の強いお導きなのだと思います。

今でもふとした時に懐かしくなり、アルバムをめくると、節目節目に礼拝堂で撮った家族写真や教会の皆さんと撮った集合写真が出てきます。もし、家族が増えた時には、自分の子どもにも、神様の教えを伝えていけるよう、しっかり勉強しておかなくては！とっております。

毎日健康に生かされ、愛する人たちと共にいられるこの幸せを感じながら、これからも神様のもとで、まっすぐに生きていけるよう努めていきたいと思えます。

季節の風

讚美歌の

調べに和する

虫の声

羽州

虫の声は秋に鳴く虫の声はさまざまである。

教会の出発点

～沖縄教区 主教按手式によせて～

司祭 下澤 昌

9月7日(土)、沖縄教区ちやたんの北谷諸魂教会において、ダビデ 上原榮正司祭が第3代の沖縄教区主教に叙任されました。北海道教区からは植松主教とともに、私も按手式に出席する恵みを与えられました。教区の代表ということ、他教区の方々とともにチャンセルの横に座り、すぐ傍で敵かな、それでいて家族的な喜びに満ちた瞬間に立ち会うことができました。沖縄の日差しは焼けるような熱さで、その日も朝から北海道人にはめまいがするような気温でしたが、教会の中は適度に温度管理がされていてとても快適でした。



按手式の司式は首座主教である植松主教、そして説教者は東北教区のカミヤ主教でした。聖職按手式はその度に聖職とは何か、信徒として生きるとはどういうことかという問いかけを受けます。その都度、新しい気づきや感動が与えられるものです。しかしその中でも、主教の按手式は、またひと味違います。この度の按手式で特に感じたのは、教会の原点、あるいは出発点ということでした。



加藤主教の説教は、典礼学の専門家らしく初代教会の職制を振り返りながら、聖職の意義と労苦を超えた喜びを分かち合う教会の思いを表明したすばらしいものでした。聖公会は教会法に規定された教区制度の上に成り立っています。例えば、お隣の教区とは交わりや協働は可能ですが、財政や人事、組織の面でははっきりと区別されています。北海道教区が青森県に勝手に教会を作ったりすることはできません。しかし、このような行政区分としての教区制度は、実は最初から採用された訳ではなく、始まりは8世紀頃であろうと言われます。それまでのいわば初代教会の「教区」は、霊的な指導者であった一人の主教の下に集う有機的なエクレスシア(=信じる者の集い)であって、地理的な区分を伴った組織ではなかったということです。

この話を聞いて私が思うことは、恐らく初代教会の人々にとって、教会の行政区分などよりももっと大切に切実な課題があったのだらうということです。それはまさに、今日を、明日をどう生きるかという、いのちの問題です。その時代、出生率も平均寿命も現代とは比べものにならない低い水準です。そこに天災や戦争の脅威が加わると、常に死は身近にあるのです。人々は生きることの意味と救いを真剣に求めたはずで、このような現実の中で、信徒たちは霊的な指導者としての主教を選び、そこから発せられるメッセージを受け取り、み言葉と聖賢による養いを通して生きる勇氣と希望を見出して、互いに祝い合ったのです。そう、祝うこと、祝福の源として主教は必要だったのです。

幸か不幸か、私たちは1500年前の教会とは違う教区制度を持っています。更に改革すべき余地も残されています。しかし、主教を教会の頭として頂くことの意味はまったく変わりがありません。私たちもまた、限りある人生を生き、不安や怖れを抱きつつ、にもかかわらず喜びを見出そうとして毎日を歩んでいる者です。そんな弱くみじめな自分を優しく守り導こうとされるキリストがともにあることが、主教という一人の人物に体現されていることを思います。主教を囲む信じる者の集いが、やがて天上でキリストご自身を囲む私たちの集いに昇華していくことを願いつつ、主教制のもとにある教会に繋がることが大きな恵みであることを、改めて思い起こしたいと思います。

9月の教会委員会の報告・決議

1. 釜石被災者支援センター閉所後のジャガイモ支援について、残る新地・小名浜被災者支援ベースへは要請があれば継続していく事を確認。
2. 逝去者を自宅安置する際に使用する十字架、燭台を作製。
3. 準備が整い次第、2013年度の「十勝特産の豆」の販売を始める。

◎釜石支援センターが閉所されました。

閉所作業に当たり、尾関敏明さん、小貫耕喜さん、高橋献一さん、斉数貴さんが24日～27日までご奉仕されました。感謝です。

神さまは私たちに
困らせたりはしません!!



今後予定される行事

- 10/11～13 教区礼拝研修会（当教会）
- 10/20 長寿を祝う会（教会）
- 10/27 収穫感謝礼拝
- 11/3 逝去者記念聖餐式
- 11/22-23 第72（定期）教区会
- 12/22 美唄・岩見沢合同礼拝
- 1/19 後期主教巡回日

◎中古ですがピアノは如何？

双葉幼稚園で使用されていたピアノの内、使用可能な2台を希望の方へお譲りします。関心のある方は牧師まで。

教会バザーへのご奉仕に感謝

聖公会幼稚園の建替えに伴い、幼稚園ホールでの“教会バザー”は今年を最後として、2年間のお休みを致します。

前年よりは若干少ない収益でしたが、熱心な売り子さんのお力もあり盛況でした。



収益の一部を『パレスチナ・ガザ地区の子ども達』（生活・教育・医療の働きの為）に奉げます。

◎今年の収穫感謝礼拝は10月27日です。

礼拝後の、芋煮会が楽しみです。



2013年10月 主日礼拝の役割分担と聖書日課、聖歌の表

	6日 緑 聖霊降臨後第20主日 (特定22)	13日 緑 聖霊降臨後第21主日 (特定23)	20日 緑 聖霊降臨後第22主日 (特定24)	27日 緑 聖霊降臨後第23主日 (特定25)
司式	下澤司祭	下澤司祭	下澤司祭	下澤司祭
説教	下澤司祭	下澤司祭	下澤司祭	下澤司祭
補式	寺本司祭	寺本司祭	寺本司祭	寺本司祭
信徒奉事者	山本雅之	大村倫子	尾関敏明	山本雅之
奏楽	大野耕一	斉数 貴	斉数 貴	下澤依子
アッシャー	木末 康	大野佳子	小貫睦子	尾関真理
オルター	木末幸永	小貫睦子	夏堀寿美子	飯塚幸子
日曜当番	大村倫子	高橋献一	寺本敦子	船津ともえ
旧約聖書	ハバクク書 1:1-6, 12-13, 2:1-4 高橋献一	ルツ記 1:8-19a 佐々木長太郎	創世記 32:4-9, 23-31 橋本知樹	エレミヤ書 14:7-10, 19-22 渡邊禮子
詩篇	37:1-9	113	121	130
使徒書	テモテへの手紙Ⅱ 1:6-14 山本雅之	テモテへの手紙Ⅱ 2:8-15 大村倫子	テモテへの手紙Ⅱ 3:14-4:5 尾関敏明	テモテへの手紙Ⅱ 4:6-8, 16-18 夏堀寿美子
福音書	ルカによる福音書 17:5-10	ルカによる福音書 17:11-19	ルカによる福音書 18:1-8a	ルカによる福音書 18:9-14
入堂	334	338	335	458
福音	488	528	448	442
奉献	367	507	238	503
陪餐	474	258	356	344
退堂	535	520	393	213
備考	教会委員会	礼拝研修会合同礼拝	長寿を祝う会	収穫感謝礼拝

説教ダイジェスト 2013.8.25

司祭こるべ

「狭い戸口から入れ」 ルカによる福音書13:24

狭い戸口から入りなさい。このイエスの言葉は、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」という質問に答えた、冒頭の言葉です。イエスは少ないとも多いとも答えずに、ただ「狭い戸口」という言葉を強調しています。これは救いということが、人がどのような道を歩むのか、つまり、一人一人の生き方に関わっていることを示しているように思います。

狭い戸口というからには、広い戸口もあるでしょう。私たちにとって広い戸口は誘惑です。何事も他人に煩わされず、苦勞するよりは楽な方が良くに決まっています。テレビのチャンネルを変えるのも、昔のようにわざわざテレビまで行かなくても、リモコンで操作する方が楽に決まっています。また、他人のために自分の時間や体を使うよりも、自分のために使う方が、たとえ結果が悪くてもまだ納得がいくのです。生活のいたる所で、この広い戸口は、さあお入り下さいと門を開け放っています。自分の人生を振り返った時、自分が選んだのは入り易い、広い戸口だったな、と思うことがあるのではないのでしょうか。私もそういうことを沢山思い出します。しかし、私たちの本当の幸せというのは、楽な入り口から入ることばかりを選んでいては、逆に実現に遠いのだというのが、聖書のメッセージです。

私の好きな言葉に「貧乏くじを引く」というのがあります。普通、みんな切実に当たりくじを引きたいのです。楽で、得な思いをしたい。しかし、世の中は、敢えて進んで貧乏くじを引く人を必要としているのではないのでしょうか。「狭い戸口から入れ」という言葉は、十字架という最も悲惨な貧乏くじを進んで引いた、イエスの言葉です。イエスが、最も狭い戸口を通られたのです。もし、わたしたちが誰かとともに苦しみや困難にあるならば、それはイエスと共に狭い戸口を入ろうとしていることに他なりません。困難の中で出会う恐れや不安、しかし、そこにはイエスと共にあることによる祝福があることも確かです。